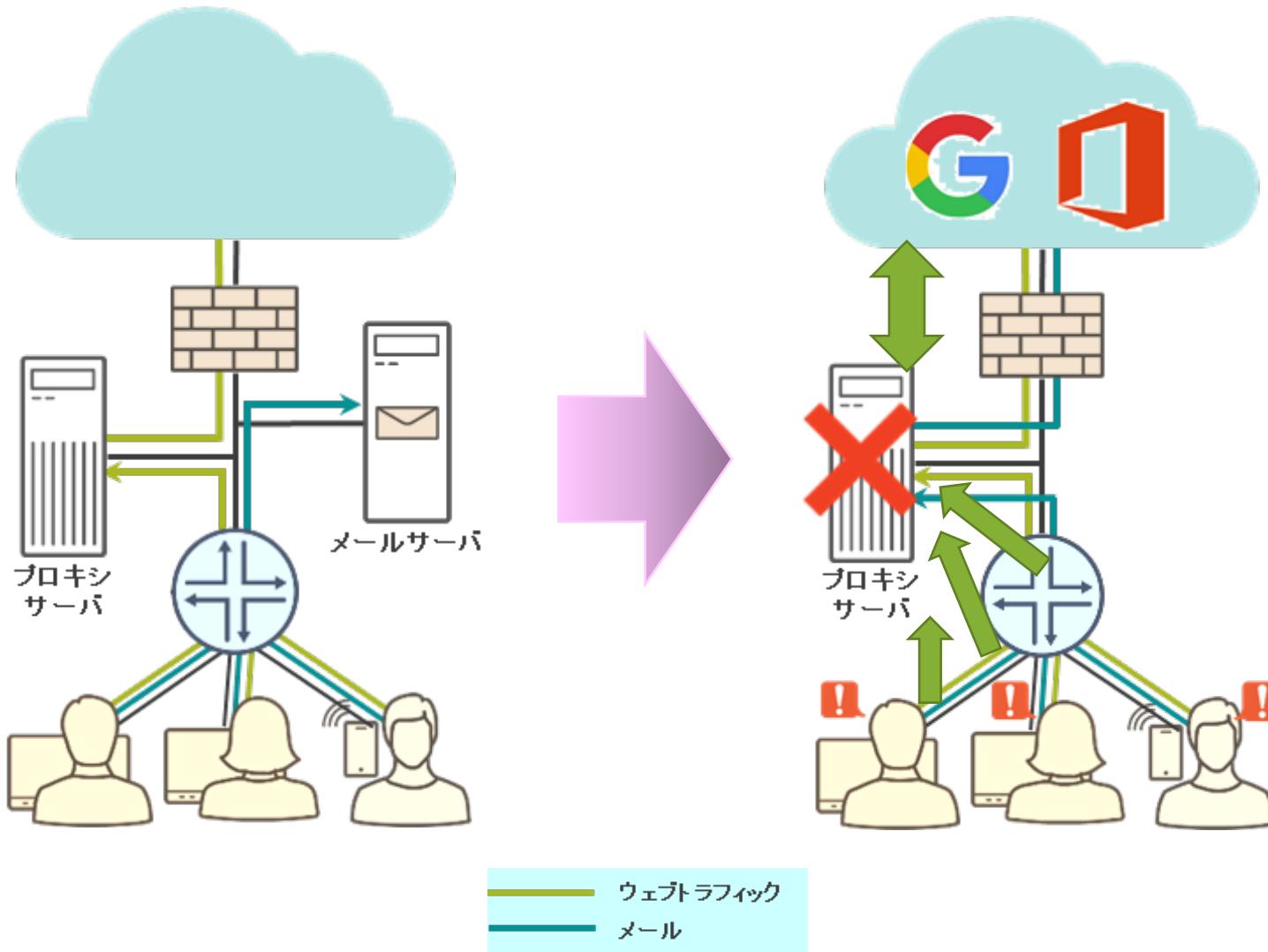


# Proxy環境におけるローカルブレイク アウトソリューションの課題と解決

Secure Web Proxy

JUNIPER  
NETWORKS | Engineering Simplicity

# SaaS導入後、ネットワークが重くなった…この原因は何か？



メールやアプリケーションサーバを  
クラウドに移行すると、インターネットや  
WANトラフィックを管理する  
セッションサーバの負荷が増大。

オンプレサーバの時と比べて、  
クラウドサービスの応答性が遅くなる。

# アプリケーションの可視化とコントロール



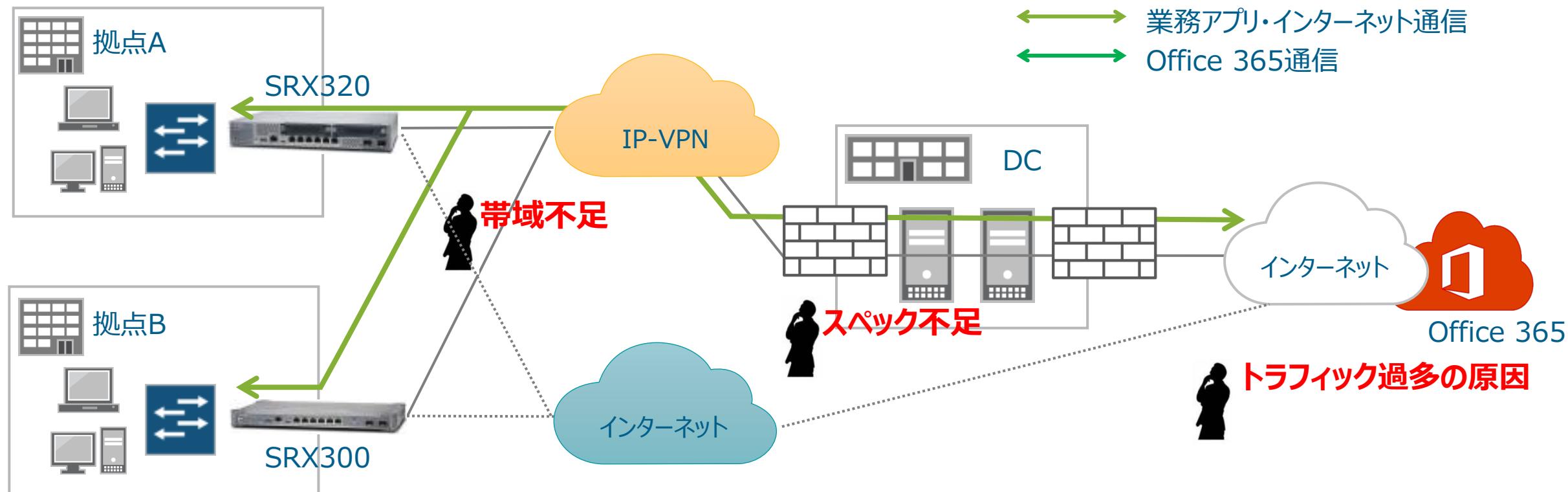
# 利用しているネットワークが遅くなった原因の判別

アプリケーションの使用帯域、セッション数、使用したユーザを表示してみると…



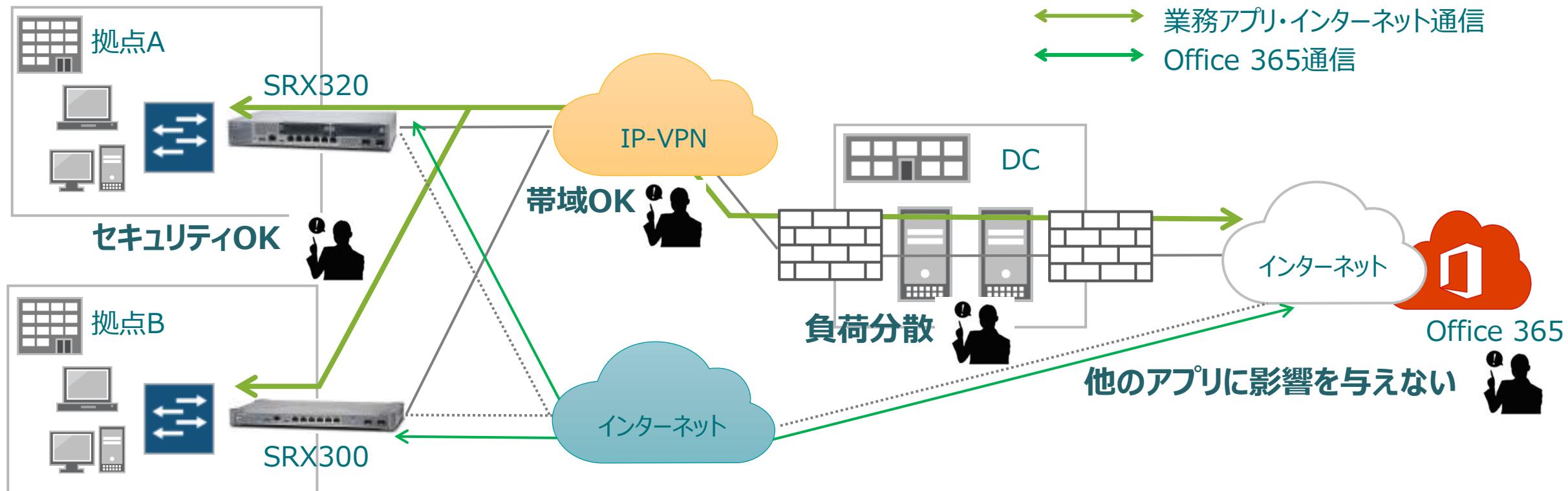
# 利用しているネットワークが遅くなった原因の判別（続き）

- ✓ WAN回線の帯域不足？
- ✓ セッションサーバの性能限界？
- ✓ その他の原因？



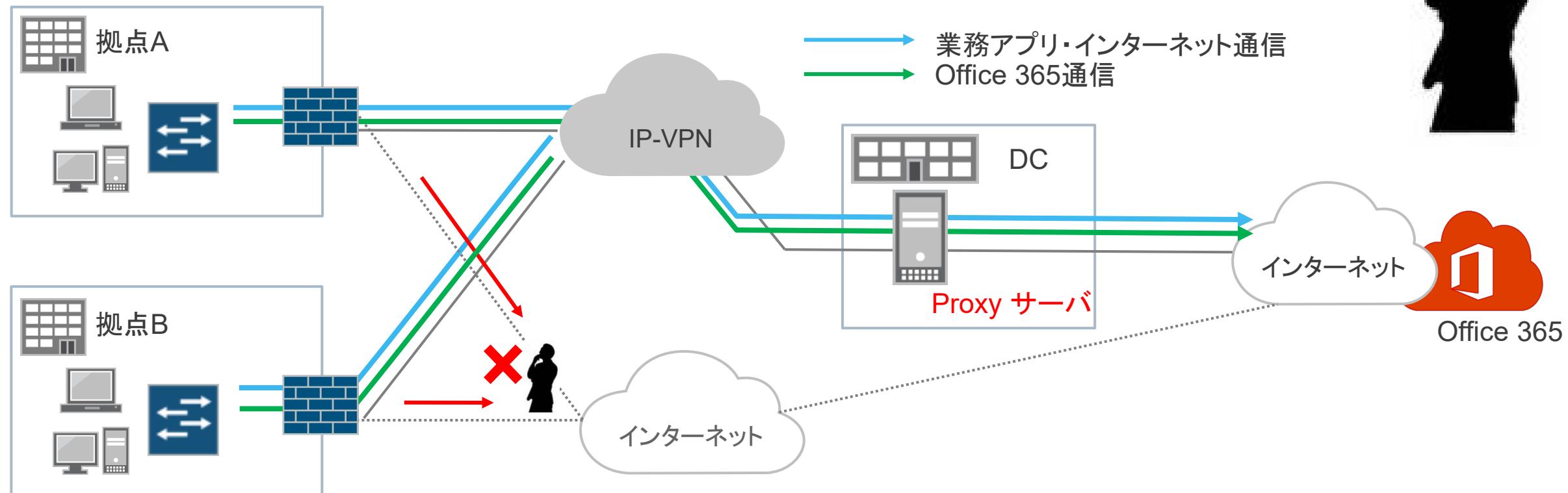
# ローカルブレークアウトの需要

- ✓ IP-VPN回線の増強は不要
- ✓ トラフィック過多の原因となっていたO365通信をインターネット回線へ負荷分散
- ✓ インターネットへのアクセスもFW経由なので問題なし



# ローカルブレークアウトソリューションの課題

クラウド化が進む中で、DCに向かうトラフィック量が増大している。  
インターネット回線を用意してトラフィックの負荷分散をしたいが、  
**Proxyサーバを導入しているため、Proxyサーバを経由しない設計は困難。**  
そのため、ローカルブレークのソリューションを導入できない。

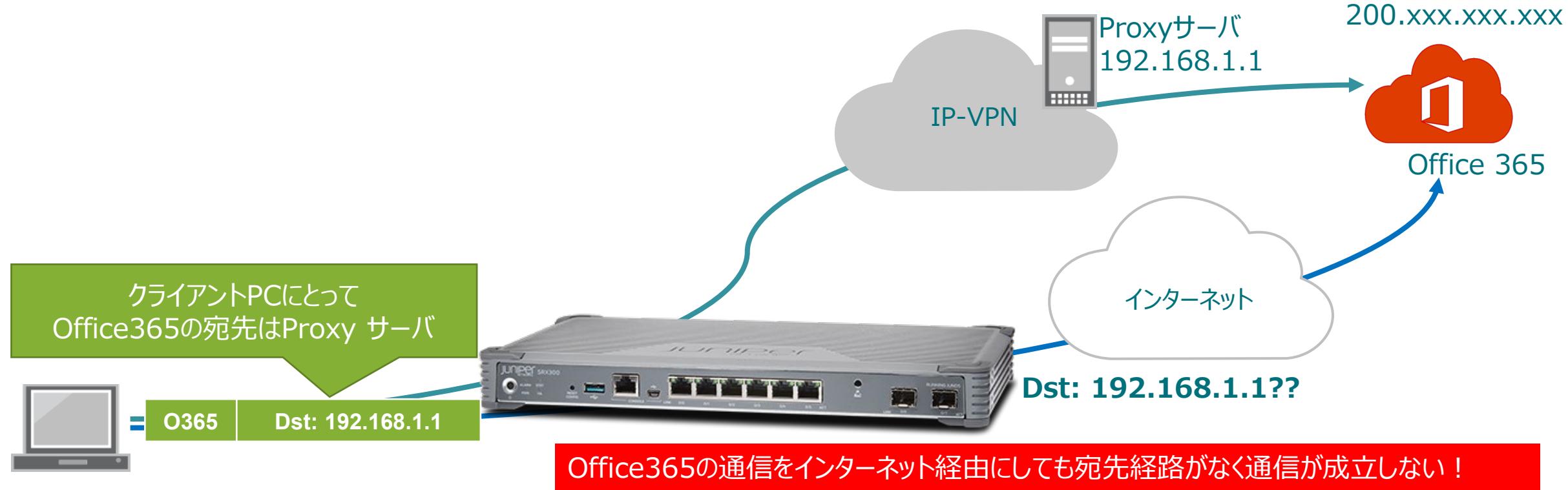


# ローカルブレークアウトソリューションを導入できない原因

Proxy環境では、クライアントは ProxyサーバのIPアドレスへ通信を開始する。

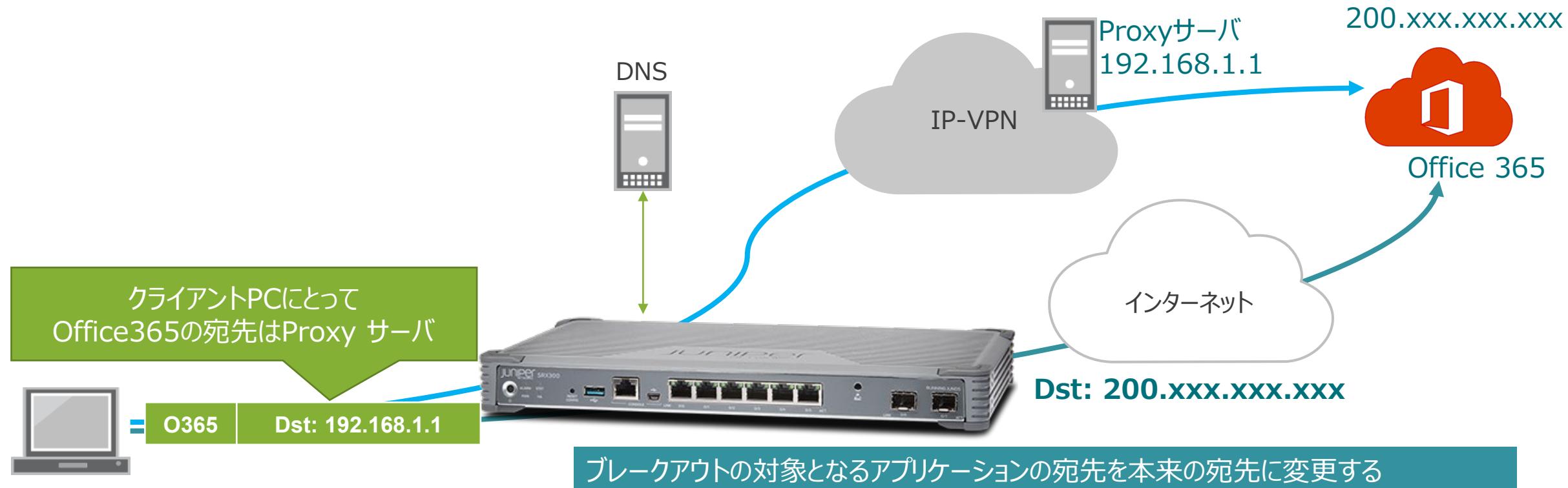
(宛先アプリケーションのIPアドレスではない。)

そのため、アプリケーションを判別してブレイクアウトしても通信が成立しない。

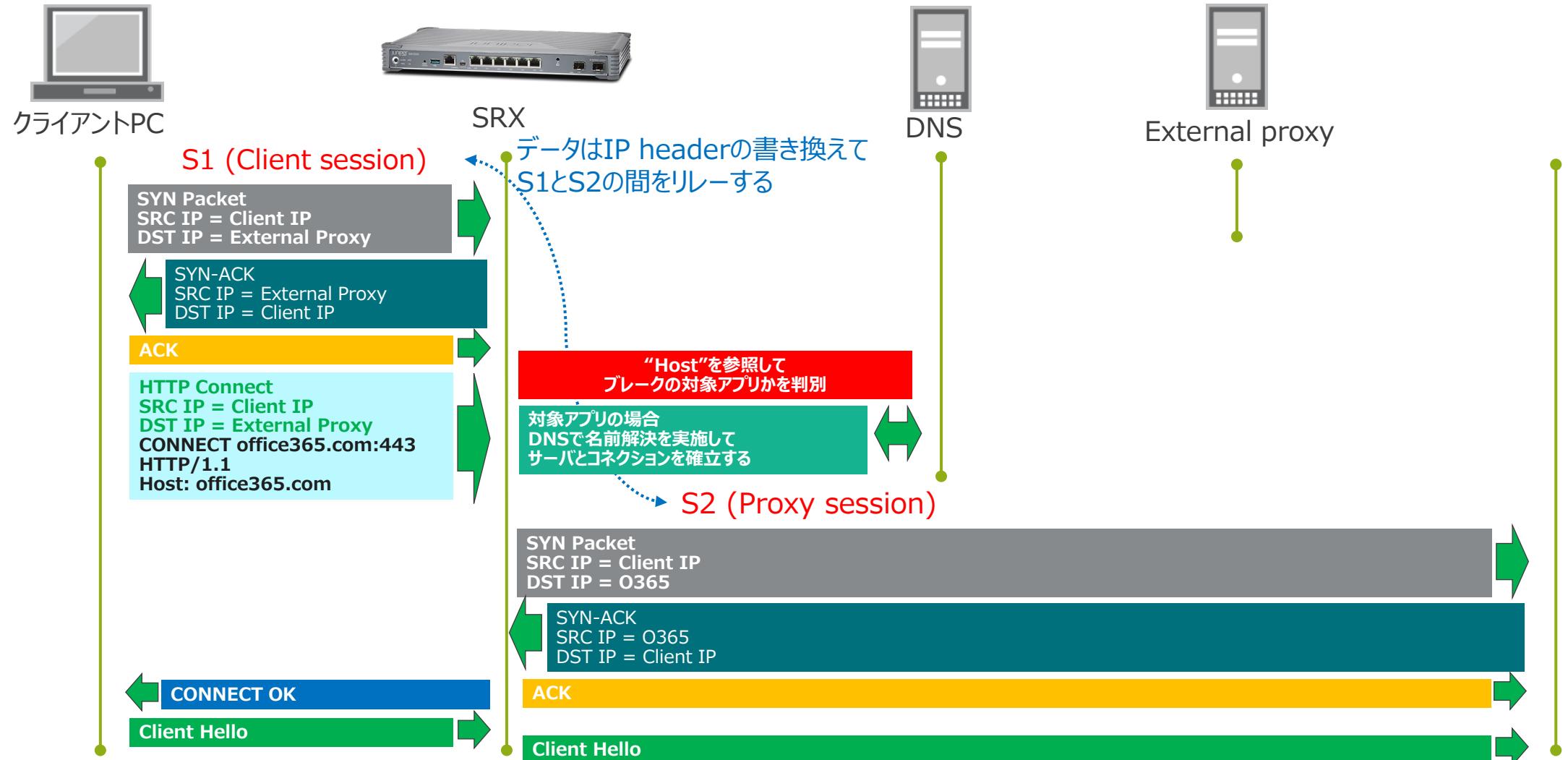


# ローカルブレークアウトソリューションを導入できない原因の解決

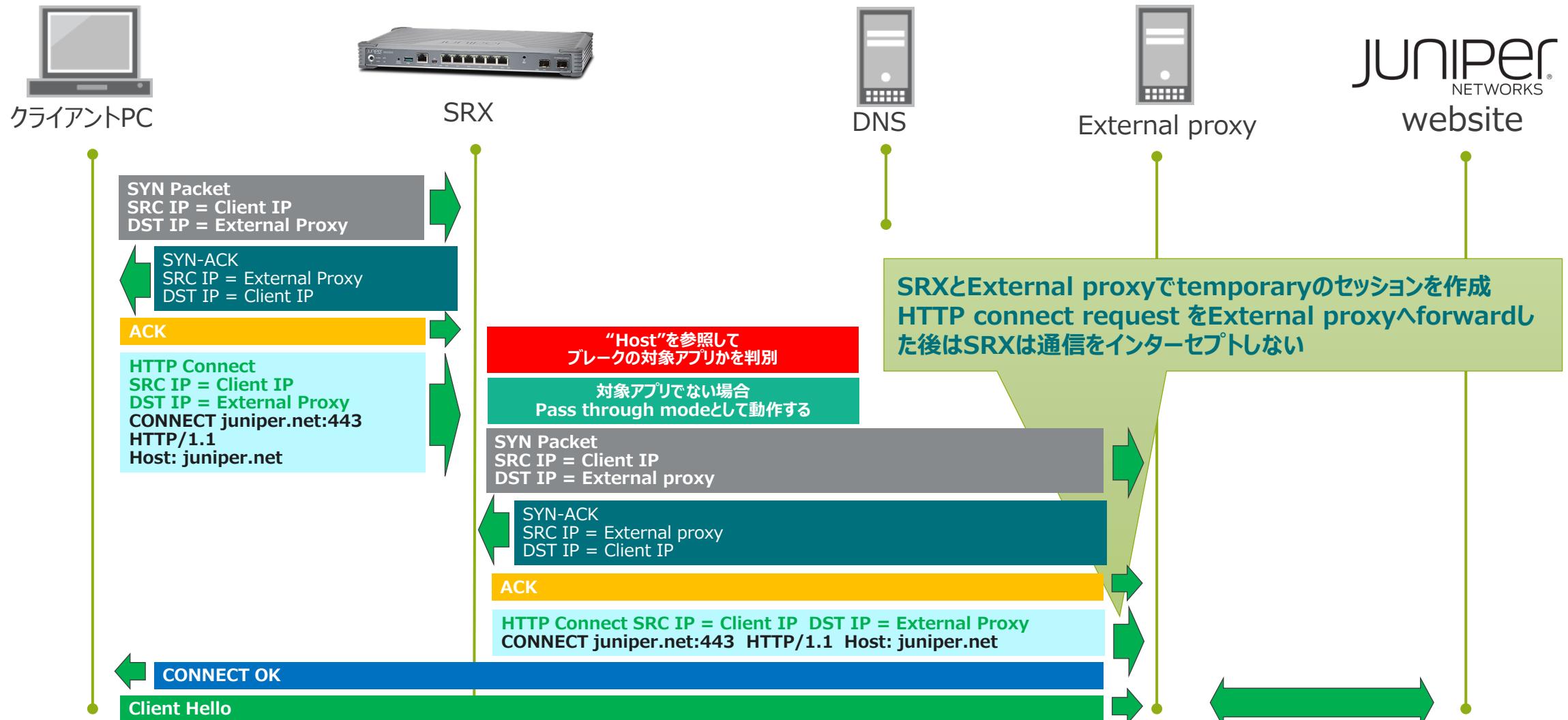
アプリケーションを判別した後、ブレークアウト対象の通信について名前解決することで到達すべき宛先IPアドレスに変更して通信が成立する。



# ブレークアウトを実施する際の動作



# ブレークアウトしない際の動作



# ブレークアウトした通信ログの表示

HTTPS (SSL) の通信でもアクセス先 (URL) とユーザ名をログ出力することが可能。

Web Filtering Events ②

Summary View Detail View

Source Port	Destination Country	Destination IP	Destination Port	User Name	アクセス先
370	Singapore	111.221.29.254	443	katagiri	v10.vortex-win.data.microsoft.com
368	Singapore	111.221.29.236	443	katagiri	array305-prod.do.dsp.mp.microsoft.com
367	United States	40.96.3.210	443	katagiri	outlook.office.com
364	United States	40.77.228.92	443	katagiri	watson.telemetry.microsoft.com
363	Singapore	111.221.29.254	443	katagiri	v10.vortex-win.data.microsoft.com



# Thank you

---



Engineering  
Simplicity